

aae 2014

Dept. of Architecture and Architectural Engineering, Kagoshima University.

2014年度 学生設計課題

レストハウス
住宅
美術館
オフィス
集合住宅
病院
劇場
キャンパス計画
卒業設計
現代美術館

第57回建築展「災害×竹×ヒカリ」

□ 2014年度 受賞歴

第8回AOI会設計優秀賞

1年生部門 坂元利伎 辻端彩乃

2年生部門 河村悠希 本山翔伍

3年生部門 山下竜成 有留麻衣

JIA 鹿児島賞 卒業設計

銀賞 Ben LAISMIT 「線上のアジール」

銅賞 上塘暁 「AGRICulture × archiTECTURE」

奨励賞 亀田翔 「原発の記憶」

八幡市民会館リポーン学生提案展 - 八幡夢みらい賞

遠矢将 伊藤郷志 平柳伸樹 奥山尚美 中武昌平

「TSUTAYAHATA- ひと・本・文化が交流する場 -」

コロキウム構造形態の解析と創生 2014

構造形態創生コンテスト - 入選

辻孝輔 田中奈津希 山口洋平 平柳伸樹

「雪降る廃村の記憶」

第1回学生・若手実務者のための構造デザインコンペティション - 総合資格奨励賞

里中拓矢 辻孝輔 山口洋平 西森裕人

「スレゴリズム-ズレて積まれる消波ブロックによる構造体-」

全国ハーフェレ学生コンペティション 2014- 入選

遠矢将 八浦祥平 奥山尚美

「樹と器」

第2回「かごしまの木の家」設計コンペ - 優秀賞

遠矢将 伊藤郷志 平柳伸樹 奥山尚美 中武昌平 沖武丸

「遊びのいえ」

日本建築学会設計競技「建築のいのち」 - 九州支部入選

隈友輔 野元麗生 和田千弘 中原宏達 岡田帆奈

「旅する建築 -100年後のための建築的提案 -」

IASS 2016 TOKYO ログコンペ - 優秀作品

里中拓矢

コロキウム構造形態の解析と創生 2014- 優秀講演

里中拓矢

「離散微分幾何手法による膜構造の形状決定」

コロキウム構造形態の解析と創生 2014- 優秀講演

田中奈津希

「多目的最適化に適用可能なホテルアルゴリズムによる構造形態創生法」

□ 2014年度 建築設計演習カリキュラム

1年	建築計画基礎演習	
	設計基礎演習Ⅰ	
	設計基礎演習Ⅱ	□小空間の設計：散策路のレストハウス
2年	建築設計Ⅰ	□生活空間の設計：住宅
	建築設計Ⅱ	□小規模公共施設：美術館 □小規模多層施設：オフィスビル
	建築設計Ⅲ	□単位と連結による設計：集合住宅 □福祉施設：病院
3年	建築設計Ⅳ	□大空間の設計：劇場 □地区計画：キャンパス計画
	卒業設計	

鹿児島大学 工学部 建築学科

〒890-0065 鹿児島市郡元1丁目21-40

TEL | 099-285-8300

FAX | 099-285-8301

URL | <http://www.aae.kagoshima-u.ac.jp>

mail | office@aae.kagoshima-u.ac.jp

編集 | 鹿児島大学大学院理工学研究科博士前期課程1年
木村明寛 上塘 暁

監修 | 鹿児島大学工学部建築学科

日時：2014年10月4日（土）
 場所：稲盛会館
 ゲストクリティーク：明治大学 教授小林正美先生
 題目：「アーバンデザインとは何か」

日時：2015年2月27日（金）
 場所：稲盛会館
 ゲストクリティーク：佐賀大学大学院 准教授 平瀬有人先生
 題目：「Architecture as observation device」



2014年度 第57回 建築展

災害時に心のよりどころとなる街のシンボル

第57回建築展「災害×竹×ヒカリ」

日時：2014.10.18~19

場所：マルヤガーデンズ7F

～屋上庭園ソラニワ～

「建築展」は建築学科3年生が中心となり、自主的に企画から製作までを行うものである。学生にとっては貴重な社会との接点であり、「課外授業」のような役割を担っている。歴史を重ねてきた建築展も今年で57回目を迎えることとなった。

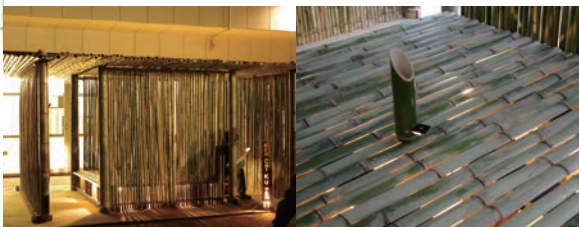
今回は、「災害時に心のよりどころとなる街のシンボル」をテーマとして、災害時に人々の心が休まる空間とはどのようなものかを考えた。そこで、竹を使った1/1スケールの休憩所を製作し、見に来て下さった方々がほっと休まる空間を提供することを目指した。

災害

2011年3月に東日本大震災が起こった。その震災の中で人々を勇気づけた街のシンボルとして津波に耐えた一本松がある。そこで私たちは、鹿児島で起こりうる災害において、人々の心の拠り所となるシンボルがどのようなものかを建築を通して考えた。

竹

鹿児島県は竹林面積が日本一を誇る。竹は、竹製品や竹灯籠祭りなどを通して人々に親しまれている資源の一つだ。そこで鹿児島の素材を生かしながら、鹿児島らしいシンボルを目指した。



ヒカリ

災害時に最も必要なものの一つとして明かりが挙げられる。明かりが一つあるだけで心の支えとなり、また自分の居場所を伝えることにも役立つ。小さな明かりでも集まれば大きな明かりになり、街を灯し、心の拠り所となる新たなシンボルになるのではないだろうか。



□レストハウス



この敷地はさまざまな人が行きかうため、分棟型にすることで利用者のニーズに合わせて、気軽に立ち寄ってもらえるよう設計した。動きのある曲面を用いた屋根を全体にかけて三つの建物に一体感を生んでいる。



歩いている人の注意を引くことができる形にしようと思いました。今回の題名のriverbedは河川敷という意味で甲突川の緩やかな流れを表現しようと思い、西面、東面の壁を曲面にしました。次に一階床レベルを1m上げることで建物の中と外にいる人の視線の高さを変えてよりリラックスできるようにしました。

(設計概要)

敷地：鹿児島市高麗町・甲突川右岸緑地
(武之橋南詰西側)
敷地面積：約 216m²
要求機能：事務空間 (約 20m²)
休憩・展示空間 (約 50m²)
その他屋外設備 駐輪場
(レンタサイクル 5 台分)

Ruche

高尾 奈緒

Road House

中野 友愛

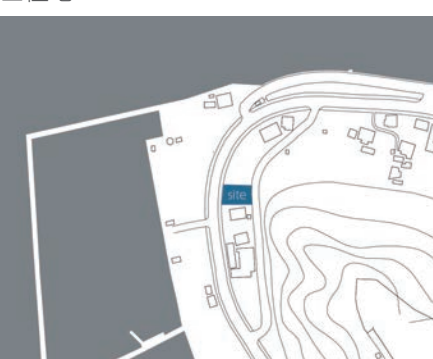


設定された敷地から桜島が見えるので、それをゆくり眺めることが出来るようなレストハウスを作ろうと思い設計しました。六角形をベースに重ねたり、ずらしたりして形を考えました。



この敷地に合わせて人の流れを散策路から円を描くようにした。アプローチには柵をたて屋根に天窗をつけ光を落として、人が自然に入れるようにした。屋根の長さを変え、外でも休憩できる空間を作った。

□住宅



心にとある感情を起こさせる風景—情景。住民が情景をいつ、どう感じるかを考えた住宅。上階は和風建築、お茶室や庭園で外部空間と曖昧につながり、下階は洋風庭園とコミュニケーションの場とした。



コンセプトは“島っこ”を育てる。住宅+学童保育。フェリーは桜島と市内を短時間で移動でき、桜島に暮らす多くの人利用する。桜島に住んでいても、一日の大半の時間を市内で過ごしている子もいるだろう。生活の中心が桜島である時に、島の子ども達に自分たちが住んでいる場所のことについて知ってもらいたい。

(設計概要)

敷地：鹿児島市桜島小池町
敷地面積：266m²+56m²
要求機能：5人以上(老人を含む2世代以上)
世帯主は、本業の他に事業・仕事を兼ねる兼業職とする。
「ひと」にとって住まいとは何か、について提案

集まる家

本山 翔伍

Art object having three spaces

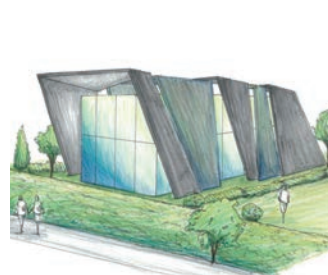
清藤 彩

散歩の途中で

野坂 直央



家は家族が集まり共に生活をする場である。「集まる」ということに注目し、交流を妨げる壁を作らずに家族間の交流を促進することで家族団らんの時をより楽しめるようにした。

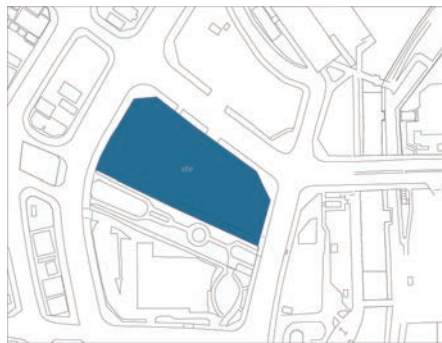


画家さんの家なので敷地をキャンパス、住宅をオブジェと化したかった。なので通常住宅の外部空間にあるものを、半内部空間をつくることでそこに隠した。そうすることで、敷地にはデザインされた住宅のみが佇む。



桜島地域のゆっくりとした時の流れのなかで生活を楽しむ住宅を提案する。建物の真ん中には一本の道が通り、住居スペースと併設される店舗スペースの境目をあいまいにすることでコミュニケーションの場を広げた。

□美術館



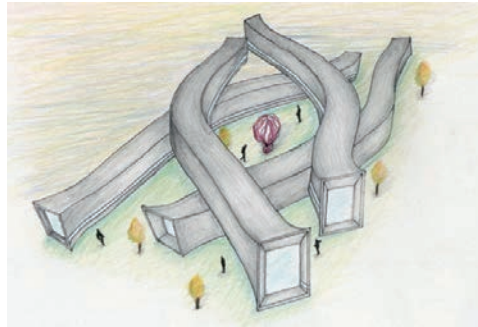
(設計概要)

敷地：鹿児島市易居町、本港新町
地域地区：準工業地域

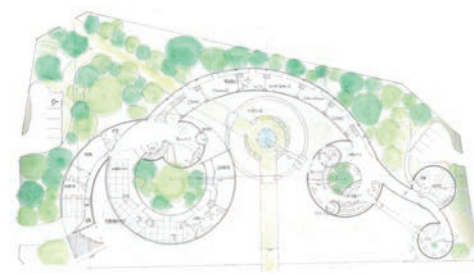
容積率 200%、建ぺい率 60%、

敷地面積：約 8,832㎡

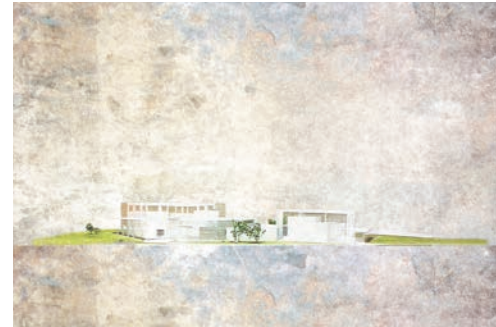
要求機能：展示するアーティスト及び作品を選定しその作品のための空間設計する。また、周辺関係との調和を意識し設計する



道を歩いていくうちにいつの間にか美術作品を鑑賞している、そんな美術館にしたかった。中庭を囲む四棟の細長い建物から構成され、ひとつひとつの建物はその用途によって、窓の位置が工夫されている。



緑(えん)という言葉には、めぐりあわせ・つながり・かわりあいの3つの意味があります。美術館を訪れた人とこの美術館との間に"縁(えん)"を感じる空間を作り出せたらと思い設計しました。



美術館は敷居の高さから足繁く通う人は少ない。そこで人の中に引き込む美術館を提案する。ガラスのボックスの中にキューブの展示室を入れ込んだ。外からは展示室のようが見え、人は非日常空間に誘い込まれる。



□オフィス



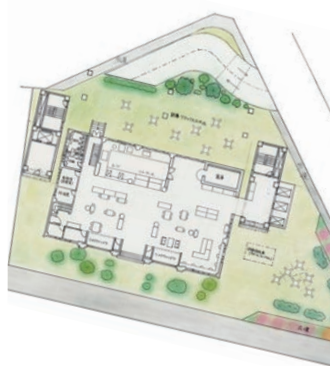
(設計概要)

敷地：鹿児島市中央町 8-2

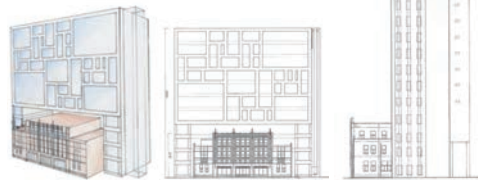
地域地区：商業地域、容積率 400%、
建ぺい率 80%、準防火地域
駐車場整備地区

敷地面積：2161,3㎡

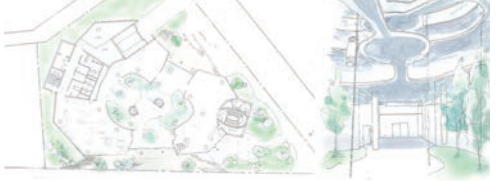
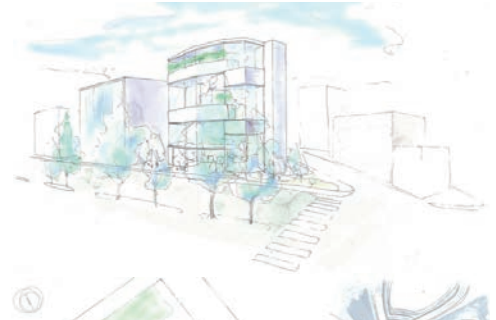
要求機能：鹿児島中央駅前の活性化に寄与する「にぎわい創出スペース」と「ワークプレイス」の計画



貴重な既存建築を残し、活用していくオフィスビルの提案。あたたかい雰囲気の内部分を持った既存建築は、まちのBook cafeとして利用する。オフィスで働く人や学生、高齢者などの幅広い年齢層の人々がこの建物に引き込む。

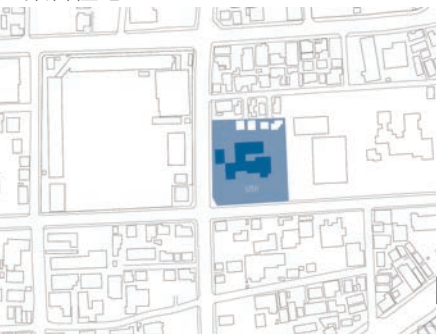


既存の建物を残し、三角形の積層オフィスを提案。三つの三角形をずらして積み合わせることでできた、半屋外的空間が特徴。その空間を通して、見る見られる関係性が生まれ、インフォーマルコミュニケーションを誘発する。



△型のユニットを組み合わせ、ある場所では中央の吹抜け、ある場所では2階層分の吹抜けにより、上下階の視線のつながりをうみだす。様々な社員や訪れた住民の姿を見つけ、声をかけ、新しい関係が始まるオフィス。

□集合住宅



(設計概要)

敷地: 鹿児島市春日町 4-60

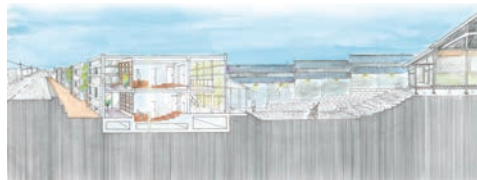
地域地区: 第一種住居地域、

容積率: 200%

建ぺい率: 60%

敷地面積: 約 4000㎡

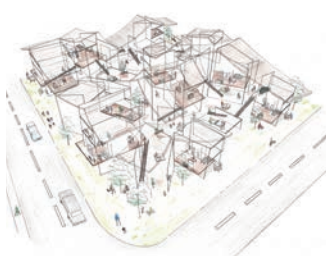
敷地状況: 既存の状態は、歴史ある建築物と豊かな緑が特徴的な敷地



既存の日本家屋によりそうように 40 人が石垣に住まうということを提案します。日本家屋内は、共有キッチンとして利用されます。食事をともにすることで、住民同士が自然に交流し、支え合う。そんな住まい方を提案します。

haco.niwa.

河崎 葉奈子



屋根下の空間を連続させることによって、プライベートな住まい方を緩和する。それぞれの風景を見せることにより、他人と直接でなくても関わり合い、風景を暮らしが家の外にあふれることを前提とした集合住宅。住む行為は通じて集合性を意識家の中だけで満たされてしまっているだろうか。住人は学生と高齢者とし、互いの個性を生活の露出を通して受け入れ合いながら、提案する。住空間が豊かに広がっていく。



コドモノイエ

坂本 佳代

既

山下 竜成



様々な家族構成をもつ 50 人が暮らす家。一人暮らしのお年寄りやシングルマザー。子供からお年寄りまでがひとつの大きな長屋で過ごす大家族のような生活を目指した。共有スペースをはさむふたつの中庭をはじめとする敷地内の庭によって住民たちの交流が豊かになる。

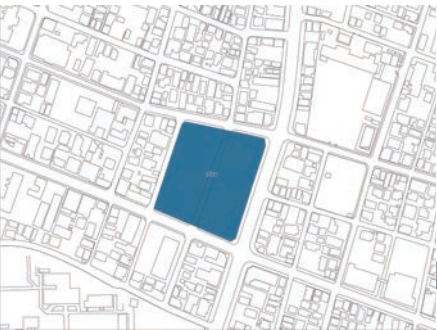


子どもの成長に合わせて様々なレベルがある床。またすべてに開けているのに部屋があるように感じられるような大空間を創った。「壁」は空間を仕切る装置ではなくここではプライベートを隠す装置となる。



日本で靴を脱ぐ行為はプライベートとパブリックを分ける行為であり、この壁を排除することで新しいつながりを生む。デッキテラスで覆われた敷地に路地を巡らすことで様々なアクティビティを誘発する集合住宅の提案。

□病院



(設計概要)

敷地: 鹿児島市上荒田町

敷地面積: 約 12,600㎡

要求機能: 内科系と外科系(手術室を確保)の

診療科目を含む。

後背人口 5 万人程度の地域の中核病院として計画する

医師数、看護師数、外来患者数を考慮し計画する



緑と光があふれる病院

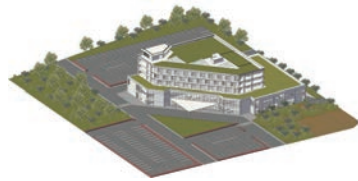
奥 唯晃

KADOMARU hospital

川野 綾弓

Community Hospital

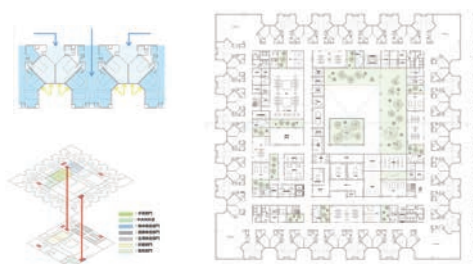
倉原 拡大



各所に緑を設けたり吹き抜けで各階に光を通すことによって入院患者の心にゆとりを持たせ職員の労働環境向上も図った、他にも基準階の回遊性を向上させることによって利用者が快適に移動できるようにした。



鹿児島に根づく、地域の病院をめざした建築を提案する。建物は、周辺の景観を壊さない形にしつつも角部を丸くすることで、従来の建築との分離を図った。光と風を取り入れ鹿児島島の豊かな自然環境に呼応する。



病院では患者、スタッフが過ごす空間であり、ストレスが伴う空間でもある。そのため、マイナスのイメージを払拭するために、光の流入を平・立・断から考え、余白を創ることで緑と光が溢れ、快適に過ごすことのできる病院の提案。



この病院は『明快な動線』『人にとって居心地の良い空間』を設計コンセプトにしており、個人個人が自発的に居心地の良い場所を選んで利用してもらえるような計画としている。

□劇場



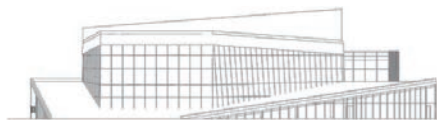
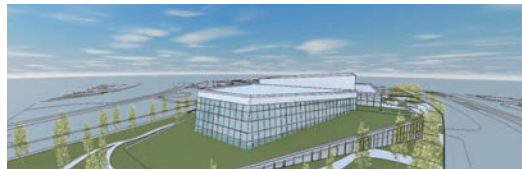
(設計概要)

敷地：鹿児島市加治屋町 20-17

地域地区：商業地域、容積率 500%、
建ぺい率 80%、防火地域、
駐車場整備地区

敷地面積：約 11,880㎡

要求機能：600人以上のホール及びホール関係諸室
別用途の 1000㎡以上の公共施設の計画



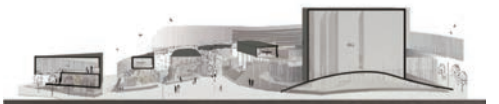
未完成のコンサートホール

散策路の休憩所としても立ち寄れるような音楽ホールを目指した。スロープ状の屋根はその上を歩くこともでき、付属の図書館では小規模なリサイクルスペースを設けており音楽を聴きながら読書等ができる。



1秒マエ・1秒アト

ホワイトはホールと一体となった閉鎖的で、ニュートラルな空白の場となっている。ホワイトのポテンシャルを生かし、新たな場として定義させる。都市の活気が空白を埋め、色付けていく新たな場を提案する。



CITY of LIFE

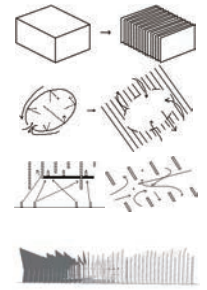
金子 祐士

竹島 光志郎

この建築は複数の建築群から成り立ちその建物間に路地空間をつくる。この路地空間は天文館と甲突川を結び、建物内の日常的な瞬間が偶発的で発散的な要素となって建物内外にもれ活気を創造していく。



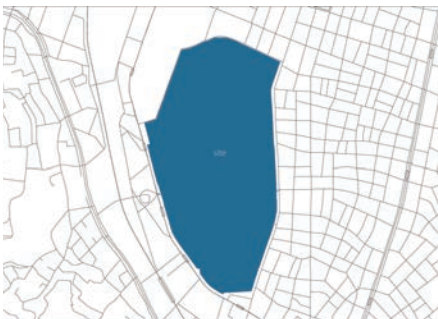
1秒マエ・1秒アト



山下 竜成

現代は様々な物事が高速化へと改良され、移動も高速化されているひとつ。連続壁を用い、立体から創作する空間をくり抜くことで、都市の高速化されるなかで遭遇する建築の形態の変化を視覚化した劇場の提案。

□キャンパス



(設計概要)

敷地：鹿児島市郡元 1 丁目

(現鹿児島大学)

地域地区：都市計画区域内、市街化区域
第一種住居地域

住居区域、近隣商業地域

敷地面積：約 351,918㎡

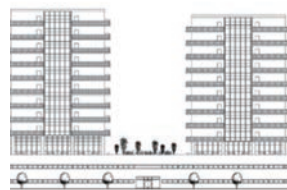
要求機能：今後 30 年程度を見据えた将来計画



Arrangement Plan



都市の中にある大学は、都市に対して閉鎖的な性格を持つ。そこで私はキャンパス内に二つの軸となるストリートを配置しそれぞれに役割を与える。そこで人々の生活が滲み出し、交流が生まれるキャンパスを提案する。

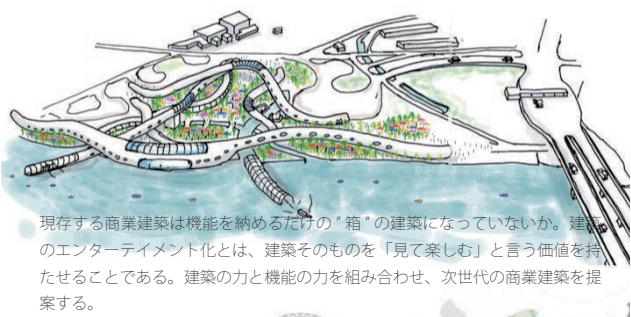


最も基本的な構成単位である、線(軸)・点(核)・面(ゾーン)の3つの次元で計画されている。地域に開かれ、周囲の環境と影響し合う。まるで都市と交ざりあっているようなキャンパス計画の提案。

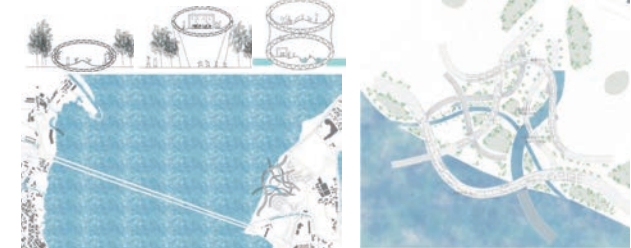


変化をテーマとしたマスタープラン。市の中心部という立地を生かし、学びと憩いの空間を維持するために、経年変化を考慮した学科棟、全体構成とした。大学を横切る緑地帯は、学生、市民各々に安らぎを与え、四季を重ねながら熟する。





現存する商業建築は機能を納めるだけの「箱」の建築になっていないか。建築のエンターテインメント化とは、建築そのものを「見て楽しむ」と言う価値を持たせることである。建築の力と機能の力を組み合わせ、次世代の商業建築を提案する。



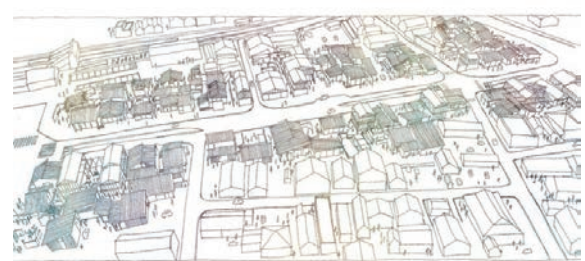
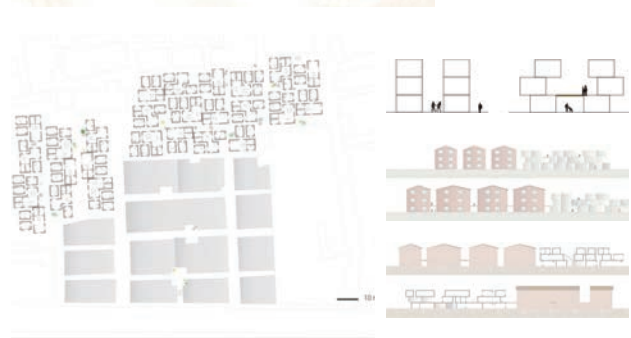
定常的に食に触れるにも関わらず、TPP 加入に伴う日本農業の問題を他人事のように考える人は少ない。建築と農地がお互いに呼応しあい、人々が余暇を利用して農業に携わる複合施設を提案する。



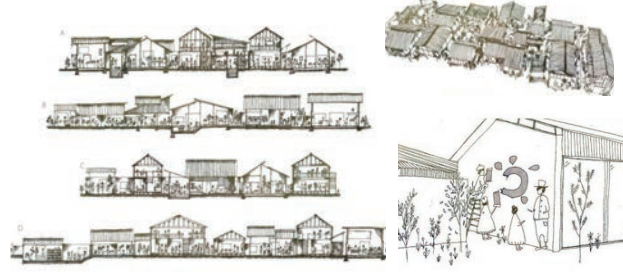
2040年、原発の面影を残した集落が誕生した。各所のソーラーパネルによる発電、植物工場をはじめとして栽培される野菜。これらによりこの集落は自立する。敷地全体に網目状の通路を張り巡らせる。360°道に囲まれた空間が生まれ、その空間では全面がファサードとなったり、全面からのアクセスが可能となったり、新しい土地の使われ方が起こる。それらの空間には、畑や果樹園、水路、小規模な港などが割り当てられる。3号機改築では原子炉はオフィスビルへ、原子炉補助建屋は変電所、資料館へ、タービン建屋は植物工場へ役割を移します。



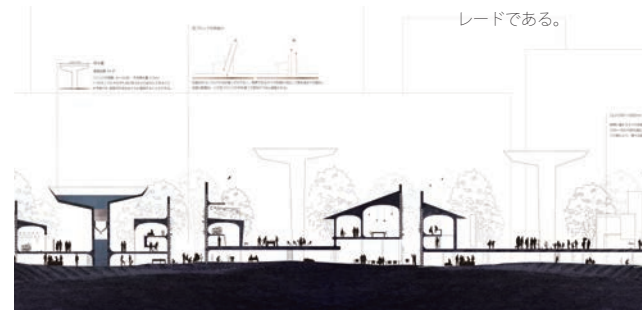
上海の石庫門式里弄集合住宅区において、ジェントリフィケーションをさけることを前提として、昔の住宅様式を受け継ぎ、今日の新しい生活スタイル要素を加え、新旧共存する里弄地区のリノベーションを提案する。



鹿児島県阿久根市駅前商店街の衰退の象徴であるシャッターアートを、阿久根市民の意志を継承してポジティブに受け止める。「そのままの衰退」と共に、アートと人と建築が繋がる。



最小限の行政管理しか受けていない線路沿いのスラム。それは、最大限の自由を与えられた場所、アジールでもあった。雨水を中心とした新たなライフスタイルと線上空間、スラムと都市の境界操作と簡易インフラによる都市との接続を提案する。クリアランスではなく、スラムのアップグレードである。





「都市の中心、アートの中心」

鹿児島市の中心市街地を敷地とした美術館の計画。都市とアートの二つの中心となるために、限りなく開放的な構成と、近年の参加型アートを取り入れることを想定し、コロセウムのような舞台を軸に構成しました。平面的な構成を解体し、立体的につくり直すことで、開放性と美術館としてのプログラムを維持しました。GLでは、舞台の周辺にカフェやレストラン、ショップ、貸し会議室を配置、周辺の街路と公園空間をつなぐ廊下に幅を与え、段差をつくることで、多目的な活用を可能にしました。また、循環する動線により、人の視点につながり、内外の関係性を強めることをめざしました。



周辺住民や市民の日常の一部となるような、または日常に寄り添うような美術館をこの場に与える。まちの中に存在するこの美術館は、敷地にとどまらず、周囲を巻き込み、溶けこむように拡がっていく。



コンペ入賞作品

全国バーフェレ学生コンペティション 2014
入賞・中村真 樹と器 遠矢将 八浦祥平 奥山尚美

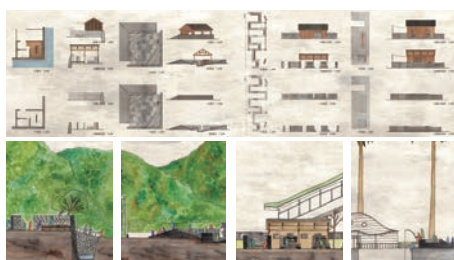
日本建築学会設計競技 2014年度「建築のいのち」
九州支部入選 旅する建築-100年後のための建築的提案 隈友輔 野元麗生 岡田帆奈 中原宏達 和田千弘

「かごしまの木の家」設計コンペ
優秀賞

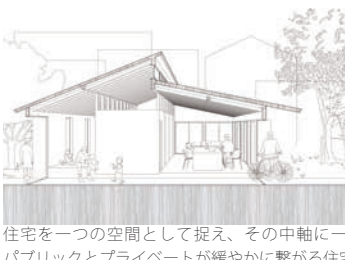
遠矢将 伊藤郷志 平柳伸樹
奥山尚美 中武昌平 沖武丸
遊びのいえ



かつてより、我々は、生活の中に自然を添え、それらを「愛でる」という価値観を持っていた。私は、その価値観に「小さいけれども豊かなもの」のヒントがあると考えた。そこで、「一本の樹」を添えた「器」としての建築を提案する。



建築のいのちは、その場に在り続けることだけだろうか。記憶を継承する礎を創り、それらを巡る旅する建築を提案する。鹿児島に101存在する麓に石垣を創り、建築がそれらを巡ることで、各地の記憶を建築が伝導する。



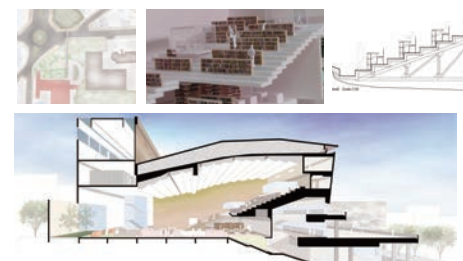
八幡市民会館リボーン学生提案展
TSUTAYAHATA-ひと・本・文化が交流する場-

八幡未来真 遠矢将 伊藤郷志 平柳伸樹
奥山尚美 中武昌平

コロキウム構造形態の解析と創生 2014 構造形態創生コンテスト
入選 雪降る廃村の記憶 辻孝輔 山口洋平 田中奈津希 平柳伸樹

辻孝輔 山口洋平 田中奈津希 平柳伸樹

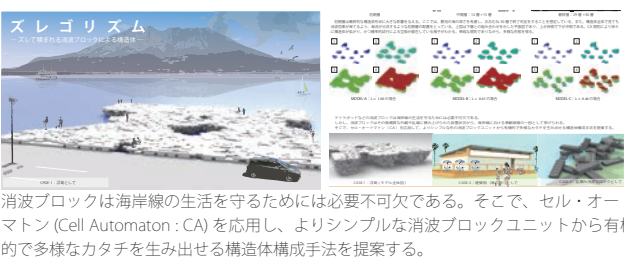
第1回 構造デザインコンペティション 総合資格奨励賞
スレゴリズム -スズレて積まれる消波ブロックによる構
里中拓矢 辻孝輔 西森裕人 山口洋平



地階エントランスから1Fへ上る階段は、直接大空間へアプローチできる劇的なシーケンスを創出する。旧観客席は開架書架・閲覧スペースとして利用。カフェや書籍販売を配置してにぎわいを生む空間にした。



地方の過疎化により、地方集落は限界集落となる事例が増加しつつある。そこで、そのような集落の記憶における建築的存続方法として、この集落の景観構成を反映させた屋根形状を構造形態創生法により提案する。



消波ブロックは海岸線の生活を守るためには必要不可欠である。そこで、セル・オートマトン(Cell Automaton : CA)を応用し、よりシンプルな消波ブロックユニットから有機的で多様なカタチを生み出せる構造体構成手法を提案する。